

2015年10月28日
株式会社オンワードホールディングス
秘書・広報部

～あなたのオンワードの服が、「希望をつなぐ毛布」に～ オンワードの回収衣料品から生産したリサイクル毛布を ベトナムの生活困窮者、ネパール大地震の被災者に寄贈

株式会社オンワードホールディングス(本社:東京都中央区 代表取締役社長:保元 道宣)は、当社の回収衣料品から生産したリサイクル毛布 4,000 枚を、日本赤十字社の協力のもと、ベトナム社会主義共和国の生活困窮者に 10 月 22 日(木)から寄贈を開始しました。また、2015 年 4 月に大規模な地震が発生したネパール連邦民主共和国の被災者にリサイクル毛布 2,000 枚を寄贈します。

当社では、“この地球を想う。この服をまとう。”を環境コンセプトに掲げ、経営の重点施策の一つとして、環境経営を推進しています。その一環として、ご愛用いただいた当社の衣料品をお客様から引き取り、可能な限りリユース・リサイクルすることを通じて、衣料品循環システムの構築を目指す「オンワード・グリーン・キャンペーン」を、春と秋の年 2 回定期的に実施。回収した衣料品の一部からリサイクル毛布などを生産し、日本赤十字社の協力のもと世界の被災地や復興中の地域へ支援のために寄贈しています。

第 8 回目の支援活動先ベトナム社会主義共和国は、2007 年に世界貿易機関(WTO)加盟を果たし、約 9,250 万人(2014 年国連人口基金推計)の人口規模を有しており、2000 年代には平均 7%を超える高成長を達成しました。2010 年には 1 人当たりの国民総所得(GNI)が 1,000 ドルを超え、低所得国となっています。一方で、農村部などにおける所得水準は依然低く、地方の少数民族を中心に貧困層が存在しており、急速な経済成長の負の側面として、環境汚染・破壊、地域間格差、保健医療・社会保障分野の体制未整備等の問題も顕在化しています。5 歳未満児の死亡推定数は 1,000 人あたり 33 人(WHO:2013 年)、妊産婦の死亡数は 100,000 人あたり 49 人(2013 年 WHO)となっており、日本と比較すると、5 歳未満児の死亡数は約 10 倍、妊産婦は約 8 倍になります。今回の寄贈は、北部山岳地帯および中部高原地帯を中心とした 34 州に暮らす生活困窮者の生活環境向上のためにリサイクル毛布を 2015 年中に 2,000 枚、2016 年中に 2,000 枚、合わせて 4,000 枚を配布します。

第 9 回目の支援活動先となるネパール連邦民主共和国は、2015 年 4 月に首都カトマンズから北西約 80 キロメートル付近を震源としたマグニチュード 7.8 規模の地震が発生。死者 8,700 人以上、全壊 50 万戸以上の甚大な被害をもたらし、280 万人が支援を必要とされていると言われています。今回の寄贈は、同地震の被災者の生活環境向上のために活用していただく予定で、リサイクル毛布 2,000 枚を 10 月に発送しました。同国には、2013 年にも高齢者や子供達を中心にリサイクル毛布を寄贈。今回で 2 回目となります。

なお、今秋の「オンワード・グリーン・キャンペーン」は、全国の百貨店・ショッピングセンター 49 店舗で 9 月 16 日から 12 月 15 日(期間は店舗によって異なります)まで実施し、約 4 万人のお客様から約 20 万点の衣料をお引き取りできる見通しです。この回収衣料の一部から新たにリサイクル毛布を作り、日本赤十字社の協力のもと、世界の被災地や復興中の地域への支援のために活用していく予定です。

ーリサイクル毛布寄贈実績ー

第 1 回 2010 年 5 月	バングラデシュ	3,000 枚	第 6 回 2013 年 10 月	ネパール	4,000 枚
第 2 回 2011 年 2 月	カザフスタン	3,300 枚	第 7 回 2014 年 10 月	ミャンマー	4,000 枚
第 3 回 2011 年 9 月	日本(東北被災地)	1,000 枚	第 8 回 2015 年 10 月	ベトナム	4,000 枚
第 4 回 2012 年 3 月	中国	2,200 枚		※内 2,000 枚は来春配布予定	
第 5 回 2012 年 9 月	モンゴル	2,000 枚	第 9 回 2015 年	ネパール	2,000 枚
			累計		25,500 枚



毛布寄贈の様子



毛布を手にする方々